

## 対話で地域課題を解決する芽室町議会に 議会改革の第2ステージを目指して

二〇一九年統一地方選で二期目の当選を果たし、私は現在、常任委員長を拝命しております。

このたびの寄稿依頼に際し、自分自身が大切にしてきたことは何かとこれまでの活動を振り返りました。

芽室町議会は「議会改革のパートナー」と例えられるほど、様々な機能強化が図られ、これまで数度にわたって議会改革度日本一の栄誉をいただいています。

ですが、果たしてその日本一の機能を私たち議員は住民のために役立てられているのかと考えたときに次のステップ、議会改革の第二ステージに上がることに、即ち「地域課題を解決できる議会、住民の役に立つ議会」になることがこれからの使命であると議会全体で取り組んでいます。

私自身が常任委員長として、課題を解決するプロセスには欠かせない議員間討議を活性化するために日頃心がけていること、それから、私たちの議会が大切にしている住民参加の場面において、住民の皆さんに「楽しく参加」して頂くための工夫、そしてその先に目指すことについて書かせていただきます。

町議会では原則すべての会議は公開されていますが、この他にも非公開のミーティング（MTG）を開き、議員間討議の深化を図っています。

MTGは委員会日程の調整や懸案事項の論点整

理、情報共有などあらゆる目的で開催しています。

誰かが発言した「吹き出し」が宙に浮いたままという聞き逃しや、論点の迷子、話し合いが振り出しに戻るなどがないよう、議論の経過を白板に書き出し、時にはグラフィックを用いながら「議論の見える化」に取り組んでいます。

現在は非公開でおこなわれているMTGを、いずれば公開の場でもおこなえるようになるまで習熟を図っていくのが私の密かな目標です。

また私たち芽室町議会ではワークショップ（WS）形式の意見交換会をよく開きます。議会モニターや四年前から意見交換会を継続している地元高校生その他に、昨年は行政視察にいらした四日市市議会の皆さんともWS形式の意見交換会をもちました。住民と交わす意見交換の場で役立つのが話し合いの「テンプレート」です。事務局がタイムキーパーとなり、今は何について話し合っているのか、何を決めるのかを共有しながら話し合いをすすめる、限られた時間の中でも住民の皆さんが参加し甲斐を感じてくださる場となることを心がけています。

そして、こうした場で重要となるのが「対話の手法」です。

「誰もが正解が分からない時代を生きているなか、地域課題を解決するために、価値観の違う多様な主体による対話によって納得解（精度の高い

仮説）を創りあげる」

これは、私たちの議員研修会にて「対話の手法」をご教授いただいた青森中央学院大学の佐藤淳・准教授の受け売りなのですが、議員間討議の場では、相手を論破したり、個々の意見表明で終わらせるのではなく、異なる意見の中から新しい方向を導き出したり、みんなが納得できる方法を創りあげることが目標に、日々「対話の筋トレ」に勤しんでいます。

そして、「住民の役に立つ議会」を実感していたために、いただいた声への成果物をお返しすることが何よりも重要ですから、習熟された議員間討議によって町政の課題や解決するための方法を見出し、議会の総意として「決めていく」ことにこれから取り組まなければならないと考えています。

今年度、私が所属する常任委員会では町政の課題と考える二つの事業を抽出し、政策提言に向けて取り組んでいます。委員会での調査、先進事務調査などを経て、これからは決めるための話し合いをすすめていかなければなりません。すべてが想定通りにすすむわけではありませんが、「対話」を大切に、全員が共通の理解のもと「決める」ことが出来るよう執りすすめていこうと考えています。

佐藤先生からご指南いただいた金言のうちの一つに「意見の否定は人格の否定ではない」という言葉があります。

どうも「議員」にはここが苦手な方が多いような気がします。ですが、ここを乗り越えどんな意見を出しても大丈夫と思える「心理的安全性」が担保された議員間討議の場づくりを心がけ、議会改革の第二ステージを目指していきたいと考えます。

へたちかわ みほ・芽室町議会議員、議会技術研究会会員